

HARLEM

SPIT'EM OUT!

02

Monthly News Paper
February, 2007
Volume 89 Issue 114

"it's absolutely raw"

- This paper gives y'all hip hop headz the real words from the real scene... -

feature interview

DJ KANGO

一步一步着実に、そして時には大胆に進化を遂げてきたDJ KANGO。
"RED ZONE"も7年目に突入すると、言葉の重みも違います。

■ "RED ZONE"が6周年を迎えましたが、過去と比べて何か変化はありますか？

何も変わっていないと言えば変わっていないですよ。ずっとやってきても、原点に戻りながら自分の感じたものを表現していくっていうスタンスなんで。新譜もかけるしOLD SCHOOLもかけるし、ジャンルにとらわれずできるだけ幅広くオイシク使えればっていうコンセプトは基本的に変わってないです。

でもやっぱり、なんだかんだ言ってもHIP HOPだから、この6年やってきて見直し始めてもいます。いろんなものを提示してあげるのがDJだけど、基本的な基盤を全部崩して無茶してもコンセプトがしっかりないと何も伝わらないと思うし、逆に新譜の料理の仕方みたいなのがすごく重要なんだと。KOYAとも向かってる方向性とかつくづく一緒だな〜とか思うし、ほんととRESPECTしてます。オーガナイザーのケンケンが参加するようになって若いDJ達とも話す機会が増えて、若い子達の気持ちがダイレクトに聞けたりとかいい感じで仲間が増えた気がするし、年を重ねるごとに、自分の精神や環境がいい方向に向かっていると思うので楽しいかぎりです。

■ 気持ち的な変化はありますか？

無理はしなくなったと思います。変に背伸びをしないというか、「すごいところを見せるぞ」「こういうのもあるぞ」って頑張り過ぎるんじゃなくて、自分のペースを崩さずにプレイするように心がけてます。一気に表現しようとするのがグチャグチャになったりするから、ちょっとずつ自然に表現するようにして、なるべくマイペースで。新譜でも自分の中でよく聴き込んで、使い方をうまく表現できるようになってからかけるようになったとか。前は「新譜が一番早く聴けるのはここのんだ」って、ホントに急いで「これこれこれ」って頑張ってた時期もあったけど、その辺はマイペースになったかな。ある意味、自然にゆっくり自分を出せるようになったとか、焦ってもいいものにはならないし、そのペースでやっていってもいいのかなって最近思うようになってきてるんで、音を探し求め進化する努力は惜しまないようになってところに気を遣ってるくらいですね。

あとは、深い時間に冒険できるようになったのかな。昔は「OLD SCHOOLもかけたいし新譜もかけたい」って気持ちばかり先に立って、あまりうまくかけられないのがあったけど、それがだんだん解放されるようになって楽しんでできるようになったから。たまに「どんどん遠くに行ってるな」って思いながらプレイしてる時もあるけど、あんまり動揺しなくなったとか(笑)。でも押しつけや適当にやってるわけではないので、自分なりに意味をもって1日の流れも考えてます。みんなで作ってるPARTYなので。

■ "RED ZONE"では海外のDJとプレイする事もありますが、彼らから受ける刺激に変化はありますか？

昔ほどは衝撃を受けるって感じじゃなくなってるっていうのはあるかもしれないですね。いろいろな細かい部分も理解できたりする自分もいるから。でも、やっぱり優れてる人は優れてるなって思いますよ。毎回衝撃を受けるDJもいるし、Stretch Armstrongなんか常に進化してるし。90年代の彼も好だし、この前彼が来た時なんか彼の先の行き方ってのは見て見ぬフリはできないですよ。すごく広がってると思うし、アンテナの張り方も面白いし、それを絶妙に料理するから。あれをゼロの状態から自分で考えつくのには相当時間が掛かるなって思うけど、いろんな国に行ったら出会った音を料理して表現してるんだらうから、見ていてすごく面白いですよ。自分たちの国のDJとはまた違った行き方があると思うから、その表現の仕方を見ると「なるほど、その発想はなかったな」ってすごく勉強にもなるし。

そういう意味では、外タレの中でも刺激とか見方が変わらない人もいますね。人間の奥の深さがDJにも出てくるんだと思いますよ。年をとればとれば、深みが出てくるというか。表現の仕方をどんどん変えていて、「前のままでやれば充分盛り上がるのに」って思うところを逆に追い込んで行って「あれ？ そっちか」的な方向にもっていくのとかすごい好きだし。そういう自分への挑戦がすごいなって思いますよ。

■ 今後の"RED ZONE"の展望は？

基本は変えず、新しい事にはどんどん挑戦して発信していきたいですね。RED ZONE SPECIALもDANCERはもちろんいろんな人をフィーチャーして広げていきたいし、下の世代にもチャンスを与えて、世代、国籍関係なくRESPECTし合い共に作り上げていければ、さらに発展すると思うのでいろいろ考えていきたいですね。すごく理解してくれている若いDJもたくさんいるし、そういう子たちがどんどん前に出れるような環境も作っていかれたらと思います。DANCERもジャンルに関係なくいろいろ紹介し、たまには自分も踊ればな(笑)。とにかくPARTYにとって大切な事を一生懸命やっていくって感じですかね、「RED ZONE」の仲間と共に。

■ DANCERとしても活動されていますが、DANCEとDJの両立は？

DANCEとDJの両立を考えると、いろんな意味でいっぱいいっぱいになってきている部分もあるから、完璧に自分の中で「こっちで」というふうにしていきたいとは思ってるんですけど。DANCEもDJもやめるとかはしないかなと、あんまり深く考えないでキープはしていきたいと思ってますね。DJもDANCEも一人で「こうだ」「こうなりたい」ってやっていたら、もうとっくにやめてたと思うんですけど、たくさんの人といろいろ刺激し合い、共感しながらやってこれたから続いているんだと思うし。



DANCEに関しては、ライフスタイルの一部としてずっと踊ればなという感じですね。DJに関しては、どんどん大きくなってきているHIP HOPの中で自分はどういう位置にいればいいか、どういうことをするのが自分のスタイルなんだろうって考えつつ、自分らしくやっていって行動で示そうかなと思ってます。現場でDJしながら、一步一步ゆっくりスタイル作りをしていけたらと思います。言葉でどうこう言うのではなく、行動で自然に形にしていけたらと思います。DJ&DANCERとして、いろんな音をたくさん聴いて、それをアートとして楽しく表現したいんで、ゆっくり探しながらやっていって発見できたらいいなと思ってます。進歩してるなっていうのは自分でも感じて、それが具体的になる頃には「こうしたかったんだ」って言えると思うんで、今はやれるところまでとことんやろうという感じですかね。

■ HARLEMは今年10周年を迎えますが、10年前と比べて変化はありますか？

まずHIP HOPを聞いている人口が増えた事と、歴史とともに年齢の幅がさらに広がりましたよね。実際10年前は客として来てたし、自分自身感じ方や見え方が、当時とぜんぜん違いますよ。正直自分から見ると若いな〜とか思ったりするけど、でもそんな場所が好きなんだとか思うし。今でも「CLUB好き」って部分はずっといっしょで、俺の基本は何も変わってないですね。この奥の深さにハマってるというか、もう抜けられないんだらうなって思います。HIP HOPっていう中にDJもあってDANCEもあって、自分の生活のほとんどをそれに費やしてるけど、全然苦じゃなくて、それが好きでしようがないみ

たいな感じですね。

"RED ZONE"を始めた6年前はホントにNYに憧れて、「そのままできたらな」ってずっと思ってたけど、今はいろいろ冷静に考えられるようになったと思ってます。こっちはこっちのいい部分、向こうは向こうのいい部分っていうのを見極めて消化して、自分のいい部分を主張していければなって思うし。自然体でできればと思ってます。向上心はずっと変わらないけど、その向上しなきゃいけない部分がたくさんあってどこからやっていけばいいのかわからなかった昔に比べて、今は「こうだ」って思えるところがあるから、冷静に自分を作ることもできるようになってきましたね。とにかくこの10年いろいろ学びました。

■ 読者にメッセージをお願いします。

クラブは楽しみに来るところだから、酒でも音でも楽しみ方は人それぞれ自由だけど、そこをみんなで共有してピースな空間作りをしたいですね。DJも遊びに来てる人たちもスタッフも、みんなが楽しめるようなPARTYになったらいいな、と思いますよ。それをみんなで作り上げていければと思ってます。ずっと遊びに来てくれている人たちもこれから遊びに来る人たちも、温かい目で見て欲しいですね。KOYA派、KANGO派っていうのもあるのかもしれないけど(笑)、オレは常にピースでやってるんで、これからもよろしくお願いします！